

## 講演会「中口国境問題の解決の分析、他」



質問を受ける井出氏

11月26日（土）15：00～17：00に新橋・生涯学習センター「ばるーん」303学習室にて井出敬二先生を講師に講演会が開催されました。

1689年康熙帝の時代にネルチンスク条約を結び、ピョートル1世との間に北の外興安嶺を国境とする条約を結びました。その後、1858年に璦琿条約により、清は黒竜江以北の土地などを失い、北京条約で沿海州もロシア領となった歴史を概観しながら現在に至るまでの経過を御講義賜りました。ブラゴベシチェンスクとアムール川をはさんだ対岸の黒竜江省黒河市璦琿区とは以前、ホバークラフトで渡河していたところ昨年大橋が開通したとのことでした。井出先生は外交はお互いの言い分をテーブルに並べてお互いの立場を突き合わせた結果、お互いが何を求めているのかを踏まえて双方の利益を斟酌してやらないといけない、その意味で中口の外交官は非常によくまとめてきたと評価していると仰られていました。モスクワは遠いですがシベリア・ハバロフスク・ウラジオストクと日本は観光交流ももっと活発になればとまた併せて日ロ平和条約等も進展があればと思いました。

終了後、近くのアイリッシュパブにて多士済々の方と懇親を深めて盛況に終わりよかったです。（大沢武久）

井出敬二先生（立教大学大学院法学研究科兼任講師）は元外交官としてロシア、中国で公使、クロアチア大使を歴任した豊富な経験と、長年の研究の著作「<中露国境>交渉史」（2017年刊）などでも知られています。今回は主にその国境問題に関する知見を分かりやすく一般の私たちにご紹介・解説いただいて、現下の国際情勢に関する見方もいくつか紹介していただく貴重な講演でした。2つの大国ロシアと中国は長年にわたる国境問題をいかに解決に導いたか日本でもあまり知られていませんが、両国との関係を模索する日本人の私たちにとってもこの歴史の事実は興味深い内容です。

近代以降、中国はロシアに奪われたとする土地を取り返すべく交渉を継続してきましたが、最終的には周恩来・鄧小平の「現状維持、棚上げ」路線に基づいて、またロシアは台頭する中国の国力を考慮しつつ領土境界を2008年に最終確定するに至りました。この際、双方が互いに接近することに戦略的なメリットを見出していたことも重要な点だとの指摘もありました。

日本に引き当てて私なりに感じるのは、ロシアとの国境問題解決、また中国との関係安定化のためには、日本自身がどのような戦略的な展望を両国とこれから新たに共有していけるか次第という事です。昨今のようなニュースばかりを目にすると、中国の上記のような「棚上げ」路線も今は隔世の感もありますが、どの国の市民も日常の生活に平和を求めている事変わらないという事を考えると、様々なコンテンツを使いながら私たちのような一般市民が直接交流の機会を作って対話していく事は大切だと思います。（江本大輝）